

進級・卒業に必要な年次別累積単位数

経済学部 経済学科（令和5年度入学者に適用）

年 次		1	2	3	4	
年次別必要累積単位数		—	54	86	124	
共通教育科目	初年次教育科目	「教養ゼミ」（教養講座を含む）			2	
	共通基礎科目	日本語表現	「日本語表現法」			2
		情報リテラシー	「情報処理基礎」			2
		英語	5科目必修※1			6
		初修外国語	同一語2科目選択必修			2
	教養教育科目	A群～F群	※2			10
	キャリア教育科目	「キャリアデザインⅠ」			1	
専門教育科目	専門基礎科目	各コースが定める必修科目と選択必修科目計62単位を含む			83	
	専門科目					「卒業論文」，「経済学演習Ⅱ」
共通教育科目もしくは専門教育科目		—	—	—	8	
望ましい年次別累積単位数		36	74	114	—	

※1 英語について、「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」「専門英語」の5科目を必修とする。

※2 教養教育科目について、A～F群の中から3つ以上の群にまたがり選択。

備 考	<ol style="list-style-type: none"> 年間履修登録上限単位数は、48単位（前期上限24単位、後期上限24単位）とする。ただし、卒業要件に含まれない科目の単位は含まない。 2年次から3年次、3年次から4年次への進級のためには、年次別必要累積単位数を満たさねばならない。年次別必要累積単位数を満たさない場合は、原級留め置き（以下「留年」という）とし、上級年次配当科目の履修はできない。また、「経済学演習Ⅰ」の単位を修得していなければ、4年次へは進級できない。 4年次へ進級ができない場合、「経済学演習Ⅰ」の単位は認定されない。 単位は、出席すべき授業回数数の3分の2以上出席し、かつ、定期及び臨時の試験等の成績評価によって合格した場合に認定される。 2年次にあっては同一年次に3年を超えて、3年次、4年次にあっては、同一年次に2年を超えて在籍することができない。ただし、休学の場合はこの限りでない。 年次別必要累積単位数には、資格取得等に関する科目（一部の科目を除く）および副専攻科目の単位は含まない。 卒業のためには、共通教育科目、専門教育科目それぞれの必要単位数と、それらの合計必要単位数を満たし、さらに、以下に記載する各学科・コースの定める必修科目すべてと選択必修科目の必要数に合格しなければならない。この条件を満たさない者は留年とする。 【総合経済コース】 必修単位：36 選択必修単位：26 【金融経済コース】 必修単位：36 選択必修単位：26 【スポーツマネジメントコース】 必修単位：30 選択必修単位：32 所定の修業年限を超過し、かつ、卒業年次で留年したもので、卒業に必要な累積単位数を満たした者は前期の終わりに卒業の認定を受けることができる。 「卒業論文」の単位は、それ以外の卒業に必要な単位をすべて修得したときに認定される。
--------	--

留学生（令和5年度入学者に適用）

年 次		1	2	3	4
年次別必要累積単位数		—	54	86	124
共通教育科目	初年次教育科目	「教養ゼミ」（教養講座を含む）			2
	共通基礎科目	情報リテラシー	「情報処理基礎」		2
		日本語	5科目必修※1		7
		英語または 初修外国語	1カ国語1科目 選択必修※2		1
	教養教育科目	A群～F群	※3		10
	キャリア教育科目	「キャリアデザインⅠ」			1
専門教育科目	専門基礎科目	各コースが定める必修科目と選択必修科目計62単位を含む			83
	専門科目				
共通教育科目もしくは専門教育科目		—	—	—	10
望ましい年次別累積単位数		36	74	114	—

※1 日本語の5科目について、「日本語(1)」「日本語(2)」「日本語(3)」「日本語(4)」「日本語(5)」を必修とする。

※2 ただし、自国語を除く。

※3 教養教育科目について、A～F群の中から3つ以上の群にまたがり選択。

備 考	<p>1. 年間履修登録上限単位数は、48単位（前期上限24単位、後期上限24単位）とする。ただし、卒業要件に含まれない科目の単位は含まない。</p> <p>2. 2年次から3年次、3年次から4年次への進級のためには、年次別必要累積単位数を満たさねばならない。年次別必要累積単位数を満たさない場合は、原級留め置き（以下「留年」という）とし、上級年次配当科目の履修はできない。また、「経済学演習Ⅰ」の単位を修得していなければ、4年次へは進級できない。</p> <p>3. 4年次へ進級ができない場合、「経済学演習Ⅰ」の単位は認定されない。</p> <p>4. 単位は、出席すべき授業回数の3分の2以上出席し、かつ、定期及び臨時の試験等の成績評価によって合格した場合に認定される。</p> <p>5. 2年次にあっては同一年次に3年を超えて、3年次、4年次にあっては、同一年次に2年を超えて在籍することができない。ただし、休学の場合はこの限りでない。</p> <p>6. 年次別必要累積単位数には、資格取得等に関する科目（一部の科目を除く）および副専攻科目の単位は含まない。</p> <p>7. 卒業のためには、共通教育科目、専門教育科目それぞれの必要単位数と、それらの合計必要単位数を満たし、さらに、以下に記載する各学科・コースの定める必修科目すべてと選択必修科目の必要数に合格しなければならない。この条件を満たさない者は留年とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">【総合経済コース】 必修単位：36 選択必修単位：26</p> <p style="padding-left: 40px;">【金融経済コース】 必修単位：36 選択必修単位：26</p> <p style="padding-left: 40px;">【スポーツマネジメントコース】 必修単位：30 選択必修単位：32</p> <p>8. 所定の修業年限を経過し、かつ、卒業年次で留年したもので、卒業に必要な累積単位数を満たした者は前期の終わりに卒業の認定を受けることができる。</p> <p>9. 「卒業論文」の単位は、それ以外の卒業に必要な単位をすべて修得したときに認定される。</p>
--------	---

進級・卒業に必要な年次別累積単位数

経済学部 国際経済学科（令和5年度入学者に適用）

年 次		1	2	3	4	
年次別必要累積単位数		—	54	86	124	
共通教育科目	初年次教育科目	「教養ゼミ」（教養講座を含む）			2	
	共通基礎科目	日本語表現	「日本語表現法」			2
		情報リテラシー	「情報処理基礎」			2
		英語	5科目必修※1			6
		初修外国語	同一語2科目選択必修			2
	教養教育科目	A群～F群	※2			10
	キャリア教育科目	「キャリアデザインⅠ」			1	
専門教育科目	専門基礎科目	各学科・コースが定める必修科目38単位、 選択必修科目30単位以上を含む			83	
	専門科目					「卒業論文」, 「経済学演習Ⅱ」
共通教育科目もしくは専門教育科目		—	—	—	8	
望ましい年次別累積単位数		36	74	114	—	

※1 英語について、「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」「専門英語」の5科目を必修とする。

※2 教養教育科目について、A～F群の中から3つ以上の群にまたがり選択。

備 考	<ol style="list-style-type: none"> 年間履修登録上限単位数は、48単位（前期上限24単位、後期上限24単位）とする。ただし、卒業要件に含まれない科目の単位は含まない。 2年次から3年次、3年次から4年次への進級のためには、年次別必要累積単位数を満たさねばならない。年次別必要累積単位数を満たさない場合は、原級留め置き（以下「留年」という）とし、上級年次配当科目の履修はできない。また、「経済学演習Ⅰ」の単位を修得していなければ、4年次へは進級できない。 4年次へ進級ができない場合、「経済学演習Ⅰ」の単位は認定されない。 単位は、出席すべき授業回数数の3分の2以上出席し、かつ、定期及び臨時的の試験等の成績評価によって合格した場合に認定される。 2年次にあっては同一年次に3年を超えて、3年次、4年次にあっては、同一年次に2年を超えて在籍することができない。ただし、休学の場合はこの限りでない。 年次別必要累積単位数には、資格取得等に関する科目（一部の科目を除く）および副専攻科目の単位は含まない。 卒業のためには、共通教育科目、専門教育科目それぞれの必要単位数と、それらの合計必要単位数を満たし、さらに各学科・コースの定める必修科目すべてと選択必修科目の必要数に合格しなければならない。この条件を満たさない者は留年とする。 所定の修業年限を経過し、かつ、卒業年次で留年したもので、卒業に必要な累積単位数を満たした者は前期の終わりに卒業の認定を受けることができる。 「卒業論文」の単位は、それ以外の卒業に必要な単位をすべて修得したときに認定される。
--------	--

留学生（令和5年度入学者に適用）

年 次		1	2	3	4
年次別必要累積単位数		—	54	86	124
共通教育科目	初年次教育科目	「教養ゼミ」（教養講座を含む）			2
	共通基礎科目	情報リテラシー	「情報処理基礎」		2
		日本語	5科目必修※1		7
		英語または 初修外国語	1カ国語1科目 選択必修※2		1
	教養教育科目	A群～F群	※3		10
	キャリア教育科目	「キャリアデザインⅠ」			1
専門教育科目	専門基礎科目	各学科・コースが定める必修科目38単位、 選択必修科目30単位以上を含む			83
	専門科目				
共通教育科目もしくは専門教育科目		—	—	—	10
望ましい年次別累積単位数		36	74	114	—

※1 日本語の5科目について、「日本語(1)」「日本語(2)」「日本語(3)」「日本語(4)」「日本語(5)」を必修とする。

※2 ただし、自国語を除く。

※3 教養教育科目について、A～F群の中から3つ以上の群にまたがり選択。

備 考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年間履修登録上限単位数は、48単位（前期上限24単位、後期上限24単位）とする。ただし、卒業要件に含まれない科目の単位は含まない。 2. 2年次から3年次、3年次から4年次への進級のためには、年次別必要累積単位数を満たさねばならない。年次別必要累積単位数を満たさない場合は、原級留め置き（以下「留年」という）とし、上級年次配当科目の履修はできない。また、「経済学演習Ⅰ」の単位を修得していなければ、4年次へは進級できない。 3. 4年次へ進級ができない場合、「経済学演習Ⅰ」の単位は認定されない。 4. 単位は、出席すべき授業回数の3分の2以上出席し、かつ、定期及び臨時の試験等の成績評価によって合格した場合に認定される。 5. 2年次にあっては同一年次に3年を超えて、3年次、4年次にあっては、同一年次に2年を超えて在籍することができない。ただし、休学の場合はこの限りでない。 6. 年次別必要累積単位数には、資格取得等に関する科目（一部の科目を除く）および副専攻科目の単位は含まない。 7. 卒業のためには、共通教育科目、専門教育科目それぞれの必要単位数と、それらの合計必要単位数を満たし、さらに各学科・コースの定める必修科目すべてと選択必修科目の必要数に合格しなければならない。この条件を満たさない者は留年とする。 8. 所定の修業年限を経過し、かつ、卒業年次で留年したもので、卒業に必要な累積単位数を満たした者は前期の終わりに卒業の認定を受けることができる。 9. 「卒業論文」の単位は、それ以外の卒業に必要な単位をすべて修得したときに認定される。
--------	---

進級・卒業に必要な年次別累積単位数

経済学部 税務会計学科（令和5年度入学者に適用）

年 次		1	2	3	4	
年次別必要累積単位数		—	54	86	124	
共通教育科目	初年次教育科目	「教養ゼミ」（教養講座を含む）			2	
	共通基礎科目	日本語表現	「日本語表現法」			2
		情報リテラシー	「情報処理基礎」			2
		英語	5科目必修※1			6
		初修外国語	同一語2科目選択必修			2
	教養教育科目	A群～F群	※2			10
	キャリア教育科目	「キャリアデザインⅠ」			1	
専門教育科目	専門基礎科目	各学科・コースが定める必修科目32単位 ※3, 選択必修科目32単位以上を含む 「卒業論文」, 「経済学演習Ⅱ」			83	
	専門科目					
共通教育科目もしくは専門教育科目		—	—	—	8	
望ましい年次別累積単位数		36	74	114	—	

※1 英語について、「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」「専門英語」の5科目を必修とする。

※2 教養教育科目について、A～F群の中から3つ以上の群にまたがり選択。

※3 ただし、税務会計学科備後経済コースの必修科目は30単位である。

備 考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年間履修登録上限単位数は、48単位（前期上限24単位、後期上限24単位）とする。ただし、卒業要件に含まれない科目の単位は含まない。 2. 2年次から3年次、3年次から4年次への進級のためには、年次別必要累積単位数を満たさねばならない。年次別必要累積単位数を満たさない場合は、原級留め置き（以下「留年」という）とし、上級年次配当科目の履修はできない。また、「経済学演習Ⅰ」の単位を修得していなければ、4年次へは進級できない。 3. 4年次へ進級ができない場合、「経済学演習Ⅰ」の単位は認定されない。 4. 単位は、出席すべき授業回数の3分の2以上出席し、かつ、定期及び臨時的の試験等の成績評価によって合格した場合に認定される。 5. 2年次にあっては同一年次に3年を超えて、3年次、4年次にあっては、同一年次に2年を超えて在籍することができない。ただし、休学の場合はこの限りでない。 6. 年次別必要累積単位数には、資格取得等に関する科目（一部の科目を除く）および副専攻科目の単位は含まない。 7. 卒業のためには、共通教育科目、専門教育科目それぞれの必要単位数と、それらの合計必要単位数を満たし、さらに各学科・コースの定める必修科目すべてと選択必修科目の必要数に合格しなければならない。この条件を満たさない者は留年とする。 8. 所定の修業年限を経過し、かつ、卒業年次で留年したもので、卒業に必要な累積単位数を満たした者は前期の終わりに卒業の認定を受けることができる。 9. 「卒業論文」の単位は、それ以外の卒業に必要な単位をすべて修得したときに認定される。
--------	--

留学生（令和5年度入学者に適用）

年 次			1	2	3	4
年次別必要累積単位数			—	54	86	124
共通教育科目	初年次教育科目	「教養ゼミ」（教養講座を含む）		—	（ただし、4年次へ進級するためには、「経済学演習Ⅰ」の単位を修得しておかなければならない）	2
	共通基礎科目	情報リテラシー	「情報処理基礎」			2
		日本語	5科目必修※1			7
		英語または初修外国語	1カ国語1科目 選択必修※2			1
	教養教育科目	A群～F群	※3			10
	キャリア教育科目	「キャリアデザインⅠ」				1
専門教育科目	専門基礎科目	各学科・コースが定める必修科目32単位 ※4、選択必修科目32単位以上を含む		—	—	83
	専門科目					
共通教育科目もしくは専門教育科目			—	—	—	10
望ましい年次別累積単位数			36	74	114	—

※1 日本語の5科目について、「日本語(1)」「日本語(2)」「日本語(3)」「日本語(4)」「日本語(5)」を必修とする。

※2 ただし、自国語を除く。

※3 教養教育科目について、A～F群の中から3つ以上の群にまたがり選択。

※4 ただし、税務会計学科備後経済コースの必修科目は30単位である。

備 考	<ol style="list-style-type: none"> 年間履修登録上限単位数は、48単位（前期上限24単位、後期上限24単位）とする。ただし、卒業要件に含まれない科目の単位は含まない。 2年次から3年次、3年次から4年次への進級のためには、年次別必要累積単位数を満たさねばならない。年次別必要累積単位数を満たさない場合は、原級留め置き（以下「留年」という）とし、上級年次配当科目の履修はできない。また、「経済学演習Ⅰ」の単位を修得していなければ、4年次へは進級できない。 4年次へ進級ができない場合、「経済学演習Ⅰ」の単位は認定されない。 単位は、出席すべき授業回数の3分の2以上出席し、かつ、定期及び臨時の試験等の成績評価によって合格した場合に認定される。 2年次にあっては同一年次に3年を超えて、3年次、4年次にあっては、同一年次に2年を超えて在籍することができない。ただし、休学の場合はこの限りでない。 年次別必要累積単位数には、資格取得等に関する科目（一部の科目を除く）および副専攻科目の単位は含まない。 卒業のためには、共通教育科目、専門教育科目それぞれの必要単位数と、それらの合計必要単位数を満たし、さらに各学科・コースの定める必修科目すべてと選択必修科目の必要数に合格しなければならない。この条件を満たさない者は留年とする。 所定の修業年限を経過し、かつ、卒業年次で留年したもので、卒業に必要な累積単位数を満たした者は前期の終わりに卒業の認定を受けることができる。 「卒業論文」の単位は、それ以外の卒業に必要な単位をすべて修得したときに認定される。
--------	--

進級・卒業に必要な年次別累積単位数

人間文化学部 人間文化学科 (令和5年度入学者に適用)

年 次		1	2	3	4
年次別必要累積単位数		—	54	92	124
共通教育科目	初年次教育科目	「教養ゼミ」(教養講座を含む)			2
	共通基礎科目	日本語表現	「日本語表現法1」		2
		情報リテラシー	「情報処理基礎」		2
		英語	5科目必修 (注1)		6
		初修外国語	同一語2科目選択必修		2
	教養教育科目	A群~F群	(注2)		10
キャリア教育科目	「キャリアデザインI」			1	
専門教育科目	専門基礎科目(必修:「日本語表現法2」「情報処理応用」)				76
	専門科目(必修:注3)	卒業論文		8	
共通教育科目もしくは専門教育科目					15
望ましい年次別累積単位数		38	76	114	—

(注1) 英語について、「英語I」「英語II」「英語III」「英語IV」「専門英語」の5科目を必修とする。

(注2) 教養教育科目について、A~F群の中から3つ以上の群にまたがり選択。

(注3) 「文化リテラシー入門」「基礎演習I」「基礎演習II」「文化演習I」「文化演習II」「文化演習III」「文化演習IV」、そのほか外国語科目から同一語2科目を選択必修とする。

人間文化学部 人間文化学科 留学生 (令和5年度入学者に適用)

年 次		1	2	3	4
年次別必要累積単位数		—	54	92	124
共通教育科目	初年次教育科目	「教養ゼミ」(教養講座を含む)			2
	共通基礎科目	情報リテラシー	「情報処理基礎」		2
		日本語	5科目必修 (注1)		7
		初修外国語	自国語を除く1カ国語(注2)		1
	教養教育科目	A群~F群	(注3)		10
専門教育科目	専門基礎科目(必修:「情報処理応用」)				76
	専門科目(必修:注4)	卒業論文		8	
共通教育科目もしくは専門教育科目					18
望ましい年次別累積単位数		38	76	114	—

(注1) 日本語の5科目について、「日本語(1)」「日本語(2)」「日本語(3)」「日本語(4)」「日本語(5)」を必修とする。

(注2) 1カ国語は外国語科目の英語と初修外国語から選ぶこと。

(注3) 教養教育科目について、A~F群の中から3つ以上の群にまたがり選択。

(注4) 「文化リテラシー入門」「基礎演習I」「基礎演習II」「文化演習I」「文化演習II」「文化演習III」「文化演習IV」、そのほか外国語科目から同一語2科目を選択必修とする。

備 考	<ol style="list-style-type: none"> 年間履修登録上限単位数は、48単位(前期上限24単位、後期上限24単位)とする。ただし、卒業要件に含まれない科目の単位は含まない。 2年次から3年次、3年次から4年次への進級のためには、年次別必要累積単位数を満たさねばならない。年次別必要累積単位数を満たさない場合は、原級留め置き(以下「留年」という)とし、上級年次配当科目の履修はできない。 単位は、出席すべき授業回数の3分の2以上出席し、かつ、定期及び臨時の試験等の成績評価によって合格した場合に認定される。 2年次にあっては同一年次に3年を超えて、3年次、4年次にあっては、同一年次に2年を超えて在籍することができない。ただし、休学の場合はこの限りでない。 年次別必要累積単位数には、資格取得等に関する科目(一部の科目を除く)および副専攻科目の単位は含まない。 所定の修業年限を経過し、かつ、卒業年次で留年した者で、卒業に必要な累積単位数を満たした者は前期の終わりに卒業の認定を受けることができる。 「卒業論文」の単位は、それ以外の卒業に必要な単位をすべて修得したときに認定される。 3年次配当の「文化演習I」「文化演習II」の単位を修得しなければ、4年次に進級できない。
--------	---

進級・卒業に必要な年次別累積単位数

人間文化学部 心理学科 (令和5年度入学者に適用)

年 次		1	2	3	4
年次別必要累積単位数		—	54	92	124
共通教育科目	初年次教育科目	「教養ゼミ」(教養講座を含む)			2
	共通基礎科目	日本語表現	「日本語表現法1」		2
		情報リテラシー	「情報処理基礎」		2
		英語	5科目※1		6
		初修外国語	同一語2科目選択必修		2
	教養教育科目	A群~F群	※2		10
キャリア教育科目	「キャリアデザインI」			1	
専門教育科目	専門基礎科目・専門科目				76
			「卒業研究」		8
共通教育科目もしくは専門教育科目					15
望ましい年次別累積単位数		38	76	114	—

※1 英語について、「英語I」「英語II」「英語III」「英語IV」「専門英語」の5科目を必修とする。

※2 教養教育科目について、A~F群の中から3つ以上の群にまたがり選択。

人間文化学部 心理学科 留学生 (令和5年度入学者に適用)

年 次		1	2	3	4
年次別必要累積単位数		—	54	92	124
共通教育科目	初年次教育科目	「教養ゼミ」(教養講座を含む)			2
	共通基礎科目	情報リテラシー	「情報処理基礎」		2
		日本語	5科目※1		7
		初修外国語	1科目※2		1
	教養教育科目	A群~F群	※3		10
専門教育科目	専門基礎科目・専門科目				76
			「卒業研究」		8
共通教育科目もしくは専門教育科目					18
望ましい年次別累積単位数		38	76	114	—

※1 日本語について、「日本語(1)」「日本語(2)」「日本語(3)」「日本語(4)」「日本語(5)」の5科目を必修とする。

※2 共通教育科目の英語と初修外国語の中から自国語を除く1カ国語を選ぶこと。

※3 教養教育科目について、A~F群の中から3つ以上の群にまたがり選択。

備 考	<ol style="list-style-type: none"> 年間履修登録上限単位数は、48単位(前期上限24単位、後期上限24単位)とする。ただし、卒業要件に含まれない科目の単位は含まない。 2年次から3年次、3年次から4年次への進級のためには、年次別必要累積単位数を満たさねばならない。年次別必要累積単位数を満たさない場合は、原級留め置き(以下「留年」という)とし、上級年次配当科目の履修はできない。 単位は、出席すべき回数$\frac{2}{3}$以上出席し、かつ、定期及び臨時の試験等の成績評価によって合格した場合に認定される。 2年次にあっては同一年次に3年を超えて、3年次、4年次にあっては、同一年次に2年を超えて在籍することができない。ただし、休学の場合はこの限りでない。 年次別必要累積単位数には、資格取得等に関する科目(一部の科目を除く)および副専攻科目の単位は含まない。 所定の修業年限を経過し、かつ、卒業年次で留年した者で、卒業に必要な累積単位数を満たした者は前期の終わりに卒業の認定を受けることができる。 3年次配当のいずれかの「課題実習」の単位を修得しなければ、4年次に進級できない。 「卒業研究」の単位は、それ以外の卒業に必要な単位をすべて修得したときに認定される。
--------	--

進級・卒業に必要な年次別累積単位数

人間文化学部 メディア・映像学科 (令和5年度入学者に適用)

年 次		1	2	3	4
年次別必要累積単位数		—	54	92	124
共通教育科目	初年次教育科目	「教養ゼミ」(教養講座を含む)			2
	共通基礎科目	日本語表現	「日本語表現法1」		2
		情報リテラシー	「情報処理基礎」		2
		英語	5科目※1		6
		初修外国語	同一語2科目選択必修		2
	教養教育科目	A群~F群	※2		10
キャリア教育科目	「キャリアデザインI」			1	
専門教育科目	専門基礎科目・専門科目		「卒業研究」		76
					8
共通教育科目もしくは専門教育科目					15
望ましい年次別累積単位数		38	76	114	—

※1 英語について、「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」「専門英語」の5科目を必修とする。

※2 教養教育科目について、A~F群の中から3つ以上の群にまたがり選択。

人間文化学部 メディア・映像学科 留学生 (令和5年度入学者に適用)

年 次		1	2	3	4
年次別必要累積単位数		—	54	92	124
共通教育科目	初年次教育科目	「教養ゼミ」(教養講座を含む)			2
	共通基礎科目	情報リテラシー	「情報処理基礎」		2
		日本語	5科目※1		7
		初修外国語	1科目※2		1
	教養教育科目	A群~F群	※3		10
専門教育科目	専門基礎科目・専門科目		「卒業研究」		76
					8
共通教育科目もしくは専門教育科目					18
望ましい年次別累積単位数		38	76	114	—

※1 日本語について、「日本語(1)」「日本語(2)」「日本語(3)」「日本語(4)」「日本語(5)」の5科目を必修とする。

※2 共通教育科目の英語と初修外国語の中から自国語を除く1力国語を選ぶこと。

※3 教養教育科目について、A~F群の中から3つ以上の群にまたがり選択。

備 考	<ol style="list-style-type: none"> 年間履修登録上限単位数は、48単位(前期上限24単位、後期上限24単位)とする。ただし、卒業要件に含まれない科目の単位は含まない。 2年次から3年次、3年次から4年次への進級のためには、年次別必要累積単位数を満たさねばならない。年次別必要累積単位数を満たさない場合は、原級留め置き(以下「留年」という)とし、上級年次配当科目の履修はできない。 単位は、出席すべき回数数の3分の2以上出席し、かつ、定期及び臨時的試験等の成績評価によって合格した場合に認定される。 2年次にあっては同一年次に3年を超えて、3年次、4年次にあっては、同一年次に2年を超えて在籍することができない。ただし、休学の場合はこの限りでない。 年次別必要累積単位数には、資格取得等に関する科目(一部の科目を除く)および副専攻科目の単位は含まない。 所定の修業年限を経過し、かつ、卒業年次で留年した者で、卒業に必要な累積単位数を満たした者は前期の終わりに卒業の認定を受けることができる。 3年次配当の「専門演習」の単位を修得しなければ、4年次に進級できない。 「卒業研究」の単位は、それ以外の卒業に必要な単位をすべて修得したときに認定される。
--------	---

進級・卒業に必要な年次別累積単位数

工学部 スマートシステム学科（令和5年度入学者に適用）

年 次		1	2	3	4
年次別必要累積単位数		—	55	91	124
共通教育科目	初年次教育科目	「教養ゼミ」（教養講座を含む）		(2)	(2)
	共通基礎科目	日本語表現	「日本語表現法」		2
		情報リテラシー	「情報処理基礎」		2
		英語	5科目必修※1		6
		初修外国語	同一語2科目選択必修		2
	教養教育科目	A群～F群	※2		11
キャリア教育科目	「キャリアデザインⅠ」		—	—	
専門教育科目	専門基礎科目・ 専門科目	プロジェクト 教育科目	みらい工学プロジェクト		74
		社会安全工学教育科目		8	
		卒業研究		8	
		共通教育科目もしくは専門教育科目		8	
望ましい年次別累積単位数		35	75	115	—

※1 英語について、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「英語Ⅲ」、「英語Ⅳ」、「専門英語」の5科目を必修とする。

※2 教養教育科目について、A～F群の中から3つ以上の群にまたがり選択。

備 考	<ol style="list-style-type: none"> 年間履修登録上限単位数は48単位（前期上限24単位，後期上限24単位）とする。ただし，卒業要件に含まれない科目の単位数は含まない。 2年次から3年次，3年次から4年次への進級のためには，年次別必要累積単位数を満たさねばならない。年次別必要累積単位数を満たさない場合は，原級留め置き（以下「留年」という）とし，上級年次配当科目の履修はできない。 単位は，出席すべき授業回数数の3分の2以上出席し，かつ，定期及び留置時の試験等の成績評価によって合格した場合に認定される。 2年次にあっては同一年次に3年を超えて，3年次，4年次にあっては，同一年次に2年を超えて在籍することができない。ただし，休学の場合はこの限りでない。 年次別必要累積単位数には，教職に関する科目（一部の科目を除く）および副専攻科目の単位は含まない。 表中の（ ）内の数字は，科目別の望ましい年次別累積単位数を示す。 所定の修業年限を経過し，かつ，4年次で留年した者で，卒業に必要な累積単位数を満たした者は前期の終わりに卒業認定を受けることができる。 みらい工学プロジェクトおよび社会安全工学教育科目は工学部推奨科目である。社会安全工学教育科目は，工学部社会安全工学教育科目から計4科目8単位を選択必修とする。
--------	--

進級・卒業に必要な年次別累積単位数

工学部 建築学科（令和5年度入学者に適用）

年 次		1	2	3	4
年次別必要累積単位数		—	55	91	124
共通教育科目	初年次教育科目	「教養ゼミ」（教養講座を含む）		(2)	(2)
	共通基礎科目	日本語表現	「日本語表現法」		2
		情報リテラシー	「情報処理基礎」		2
		英語	5科目必修※1		6
		初修外国語	同一語2科目選択必修		2
	教養教育科目	A群～F群	※2		11
キャリア教育科目	「キャリアデザインⅠ」		—	—	
専門教育科目	専門基礎科目・ 専門科目	プロジェクト 教育科目	みらい工学プロジェクト		74
		社会安全工学教育科目		8	
		卒業研究		8	
		共通教育科目もしくは専門教育科目		8	
望ましい年次別累積単位数		35	75	115	—

※1 英語について、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「英語Ⅲ」、「英語Ⅳ」、「専門英語」の5科目を必修とする。

※2 教養教育科目について、A～F群の中から3つ以上の群にまたがり選択。

備 考	<ol style="list-style-type: none"> 年間履修登録上限単位数は48単位（前期上限24単位，後期上限24単位）とする。ただし，卒業要件に含まれない科目の単位数は含まない。 2年次から3年次，3年次から4年次への進級のためには，年次別必要累積単位数を満たさねばならない。年次別必要累積単位数を満たさない場合は，原級留め置き（以下「留年」という）とし，上級年次配当科目の履修はできない。 単位は，出席すべき授業回数の3分の2以上出席し，かつ，定期及び留時の試験等の成績評価によって合格した場合に認定される。 2年次にあっては同一年次に3年を超えて，3年次，4年次にあっては，同一年次に2年を超えて在籍することができない。ただし，休学の場合はこの限りでない。 年次別必要累積単位数には，教職に関する科目（一部の科目を除く）および副専攻科目の単位は含まない。 表中の（ ）内の数字は，科目別の望ましい年次別累積単位数を示す。 所定の修業年限を経過し，かつ，4年次で留年した者で，卒業に必要な累積単位数を満たした者は前期の終わりに卒業認定を受けることができる。 みらい工学プロジェクトおよび社会安全工学教育科目は工学部推奨科目である。社会安全工学教育科目は，工学部社会安全工学教育科目から計4科目8単位を選択必修とする。
--------	--

進級・卒業に必要な年次別累積単位数

工学部 情報工学科（令和5年度入学者に適用）

年 次		1	2	3	4
年次別必要累積単位数		—	55	91	124
共通教育科目	初年次教育科目	「教養ゼミ」（教養講座を含む）		(2)	2
	共通基礎科目	日本語表現	「日本語表現法」		2
		情報リテラシー	「情報処理基礎」		2
		英語	5科目必修※1		6
		初修外国語	同一語2科目選択必修		2
	教養教育科目	A群～F群	※2		11
キャリア教育科目	「キャリアデザインⅠ」		—	1	
専門教育科目	専門基礎科目・ 専門科目	プロジェクト 教育科目	みらい工学プロジェクト		74
		社会安全工学教育科目		8	
		卒業研究		8	
共通教育科目もしくは専門教育科目		—	—	—	8
望ましい年次別累積単位数		35	75	115	—

※1 英語について、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「英語Ⅲ」、「英語Ⅳ」、「専門英語」の5科目を必修とする。

※2 教養教育科目について、A～F群の中から3つ以上の群にまたがり選択。

備 考	<ol style="list-style-type: none"> 年間履修登録上限単位数は48単位（前期上限24単位，後期上限24単位）とする。ただし，卒業要件に含まれない科目の単位数は含まない。 2年次から3年次，3年次から4年次への進級のためには，年次別必要累積単位数を満たさねばならない。年次別必要累積単位数を満たさない場合は，原級留め置き（以下「留年」という）とし，上級年次配当科目の履修はできない。 単位は，出席すべき授業回数数の3分の2以上出席し，かつ，定期及び臨時の試験等の成績評価によって合格した場合に認定される。 2年次にあっては同一年次に3年を超えて，3年次，4年次にあっては，同一年次に2年を超えて在籍することができない。ただし，休学の場合はこの限りでない。 年次別必要累積単位数には，教職に関する科目（一部の科目を除く）および副専攻科目の単位は含まない。 表中の（ ）内の数字は，科目別の望ましい年次別累積単位数を示す。 所定の修業年限を経過し，かつ，4年次で留年した者で，卒業に必要な累積単位数を満たした者は前期の終わりに卒業認定を受けることができる。 みらい工学プロジェクトおよび社会安全工学教育科目は工学部推奨科目である。社会安全工学教育科目は，工学部社会安全工学教育科目から計4科目8単位を選択必修とする。 3年次に進級するには，情報処理技術Ⅰの単位を修得しておかなければならない。
--------	--

進級・卒業に必要な年次別累積単位数

工学部 機械システム工学科（令和5年度入学者に適用）

年 次		1	2	3	4
年次別必要累積単位数		—	55	91	124
共通教育科目	初年次教育科目	「教養ゼミ」（教養講座を含む）		(2)	(2)
	共通基礎科目	日本語表現	「日本語表現法」		2
		情報リテラシー	「情報処理基礎」		2
		英語	5科目必修※1		6
		初修外国語	同一語2科目選択必修		2
	教養教育科目	A群～F群	※2		11
キャリア教育科目	「キャリアデザインI」		—	—	
専門教育科目	専門基礎科目・ 専門科目	プロジェクト 教育科目	みらい工学プロジェクト		74
		社会安全工学教育科目		8	
		卒業研究		8	
		共通教育科目もしくは専門教育科目		8	
望ましい年次別累積単位数		35	75	115	—

※1 英語について、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「英語Ⅲ」、「英語Ⅳ」、「専門英語」の5科目を必修とする。

※2 教養教育科目について、A～F群の中から3つ以上の群にまたがり選択。

備 考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年間履修登録上限単位数は48単位（前期上限24単位，後期上限24単位）とする。ただし、卒業要件に含まれない科目の単位数は含まない。 2. 2年次から3年次，3年次から4年次への進級のためには、年次別必要累積単位数を満たさねばならない。年次別必要累積単位数を満たさない場合は、原級留め置き（以下「留年」という）とし、上級年次配当科目の履修はできない。 3. 単位は、出席すべき授業回数数の3分の2以上出席し、かつ、定期及び臨時の試験等の成績評価によって合格した場合に認定される。 4. 2年次にあっては同一年次に3年を超えて、3年次，4年次にあっては、同一年次に2年を超えて在籍することができない。ただし、休学の場合はこの限りでない。 5. 年次別必要累積単位数には、教職に関する科目（一部の科目を除く）および副専攻科目の単位は含まない。 6. 表中の（ ）内の数字は、科目別の望ましい年次別累積単位数を示す。 7. 所定の修業年限を経過し、かつ、4年次で留年した者で、卒業に必要な累積単位数を満たした者は前期の終わりに卒業認定を受けることができる。 8. みらい工学プロジェクトおよび社会安全工学教育科目は工学部推奨科目である。社会安全工学教育科目は、工学部社会安全工学教育科目から計4科目8単位を選択必修とする。
--------	---

進級・卒業に必要な年次別累積単位数

生命工学部 生物工学科（令和5年度入学者に適用）

年 次		1	2	3	4
年次別必要累積単位数		—	56	94	124
共通教育科目	初年次教育科目	「教養ゼミ」（教養講座を含む）			2
	共通基礎科目	日本語表現	「日本語表現法」		2
		情報リテラシー	「情報処理基礎」		2
		英語	5科目必修 ※1		6
		初修外国語	同一語 2科目選択必修		2
	教養教育科目	A群～F群	※2		11
キャリア教育科目	「キャリアデザインⅠ」			1	
専門教育科目		(10+[4])	(30+[9])	60+[14]	74+[14]
	卒業研究	—	—	—	[6]
共通教育科目もしくは専門教育科目		—	—	—	4
望ましい年次別累積単位数		32	68	104	—

※1 英語について、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「英語Ⅲ」、「英語Ⅳ」、「専門英語」の5科目を必修とする。

※2 教養教育科目について、A～F群の中から3つ以上の群にまたがり選択。

備 考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年間履修登録上限単位数は、48単位（前期上限24単位、後期上限24単位）とする。ただし、卒業要件に含まれない科目の単位数は含まない。 2. 2年次から3年次、3年次から4年次への進級のためには、年次別必要累積単位数を満たさねばならない。年次別必要累積単位数を満たさない場合は、原級留め置き（以下「留年」という）とし、上級年次配当科目の履修はできない。 3. 単位は、出席すべき授業回数数の3分の2以上出席し、かつ、定期及び履修時の試験等の成績評価によって合格した場合に認定される。 4. 2年次にあっては同一年次に3年を超えて、3年次、4年次にあっては、同一年次に2年を超えて在籍することができない。ただし、休学の場合はこの限りでない。 5. 年次別必要累積単位数には、資格取得等に関する科目（一部の科目を除く）および副専攻科目の単位は含まない。 6. 表中の（ ）内の数字は、科目別の望ましい年次別累積単位数であり、それぞれの単位数を満たさない者は、上級年次の配当科目を履修できない場合がある。また、[]内の数字は、専門教育科目の必修の実験・実習科目（卒業研究を含む）の累積単位数である。 7. 生物科学特別実験の単位は、3年次必要累積単位数を満たし、それ以外の実験・実習科目の単位すべてを取得しなければ、認定されない。 8. 卒業のためには、共通教育科目・専門教育科目それぞれの4年次における必要累積単位数を満たし、さらに必修科目全てに合格しなければならない。この条件を満たさない者は留年とする。 9. 所定の修業年次を経過し、かつ、卒業年次で留年した者で、卒業に必要な累積単位数を満たした者は前期の終わりに卒業の認定を受けることができる。
--------	--

進級・卒業に必要な年次別累積単位数

生命工学部 生命栄養科学科（令和5年度入学者に適用）

年 次		1	2	3	4
年次別必要累積単位数		—	56	94	124
共通教育科目	初年次教育科目	「教養ゼミ」（教養講座を含む）		(26)	2
	共通基礎科目	日本語表現	「日本語表現法」		2
		情報リテラシー	「情報処理基礎」		2
	英語	5科目必修 ※1			6
		初修外国語 同一語 2科目選択必修			2
教養教育科目	A群～F群	※2	11		
キャリア教育科目	「キャリアデザインⅠ」		1		
専門教育科目		(6+[5])	(26+[14])	(56+[18])	70+[18]
		卒業研究	—	—	[6]
共通教育科目もしくは専門教育科目		—	—	—	4
望ましい年次別累積単位数		32	68	104	—

※1 英語について、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「英語Ⅲ」、「英語Ⅳ」、「専門英語」の5科目を必修とする。

※2 教養教育科目について、A～F群の中から3つ以上の群にまたがり選択。

備	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年間履修登録上限単位数は、48単位（前期上限24単位、後期上限24単位）とする。ただし、卒業要件に含まれない科目の単位は含まない。 2. 2年次から3年次、3年次から4年次への進級のためには、年次別必要累積単位数を満たさねばならない。年次別必要累積単位数を満たさない場合は、原級留め置き（以下「留年」という）とし、上級年次配当科目の履修はできない。 3. 単位は、出席すべき授業回数の3分の2以上出席し、かつ、定期及び臨時の試験等の成績評価によって合格した場合に認定される。 4. 2年次にあっては同一年次に3年を超えて、3年次、4年次にあっては、同一年次に2年を超えて在籍することができない。ただし、休学の場合はこの限りでない。 5. 年次別必要累積単位数には、資格取得等に関する科目（一部の科目を除く）および副専攻科目の単位は含まない。 6. 表中の（ ）内の数字は、科目別の望ましい年次別累積単位数であり、それぞれの単位数を満たさない者は、上級年次の配当科目を履修できない場合がある。また、[]内の数字は、専門教育科目の必修の実験・実習科目（卒業研究を含む）の累積単位数である。 7. 卒業のためには、共通教育科目・専門教育科目それぞれの4年次における必要累積単位数を満たし、さらに必修科目全てに合格しなければならない。この条件を満たさない者は留年とする。 8. 所定の修業年次を経過し、かつ、卒業年次で留年した者で、卒業に必要な累積単位数を満たした者は前期の終わりに卒業の認定を受けることができる。 9. 食品衛生管理者および食品衛生監視員資格の取得については、取得可能な免許・資格の項に記す。 10. 管理栄養士国家試験受験資格を得るためには、別表1に示す科目を取得しなければならない。 11. 臨地・校外実習科目を履修するには、原則として、別表2に示す科目を取得しなければならない。
---	---

進級・卒業に必要な年次別累積単位数

生命工学部 海洋生物科学科（令和5年度入学者に適用）

年 次		1	2	3	4	
年次別必要累積単位数		—	56	94	124	
共通教育科目	初年次教育科目	「教養ゼミ」（教養講座を含む）			2	
	共通基礎科目	日本語表現	「日本語表現法」		2	
		情報リテラシー	「情報処理基礎」		2	
		英語	5科目必修※1	—	—	(26)
	初修外国語	同一語 2科目選択必修			2	
	教養教育科目	A群～F群	※2		11	
キャリア教育科目	「キャリアデザインⅠ」			1		
専門教育科目			(8+[2])	(30+[6])	62+[8]	80+[8]
	卒業研究		—	—	—	[6]
共通教育科目もしくは専門教育科目		—	—	—	4	
望ましい年次別累積単位数		32	68	104	—	

※1 英語について、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「英語Ⅲ」、「英語Ⅳ」、「専門英語」の5科目を必修とする。

※2 教養教育科目について、A～F群の中から3つ以上の群にまたがり選択。

備 考	<ol style="list-style-type: none"> 年間履修登録上限単位数は、48単位（前期上限24単位、後期上限24単位）とする。ただし、卒業要件に含まれない科目の単位は含まない。 2年次から3年次への進級のためには、年次別必要累積単位数を満たさなければならない。3年次から4年次への進級のためには、年次別必要累積単位数と専門教育科目の進級基準を満たさなければならない。これらの単位数を満たさない場合は、原級留め置き（以下「留年」という）とし、上級年次配当科目の履修はできない。 単位は、出席すべき授業回数の3分の2以上出席し、かつ、定期及び臨時の試験等の成績評価によって合格した場合に認定される。 2年次にあっては同一年次に3年を超えて、3年次、4年次にあっては、同一年次に2年を超えて在籍することができない。ただし、休学の場合はこの限りでない。 年次別必要累積単位数には、資格取得等に関する科目（一部の科目を除く）および副専攻科目の単位は含まない。 表中の（ ）内の数字は、科目別の望ましい年次別累積単位数であり、それぞれの単位数を満たさない者は、上級年次の配当科目を履修できない場合がある。また、[]内の数字は、専門教育科目の必修の実験・実習科目（卒業研究を含む）の累積単位数である。 卒業のためには、共通教育科目・専門教育科目それぞれの4年次における必要累積単位数を満たし、さらに必修科目全てに合格しなければならない。この条件を満たさない者は留年とする。 所定の修業年次を経過し、かつ、卒業年次で留年した者で、卒業に必要な累積単位数を満たした者は前期の終わりに卒業の認定を受けることができる。
--------	---

進級・卒業に必要な年次別累積単位数

薬学部 薬学科（令和5年度入学者に適用）

年 次		1	2	3	4	5	6					
年次別必要累積単位数		27 〔1〕	55 〔7〕	81 〔12〕	119 〔34〕	149 〔55〕	186 〔91〕					
共通教育科目	初年次教育科目	「教養ゼミ」（教養講座を含む）※1		(2)	2	2	2					
	共通基礎科目	日本語表現	「日本語表現法」		(2)	2	2	2				
		情報リテラシー	「情報処理基礎」		(2)	2	2	2				
		英語	6科目必修※2		1	2	3	4	5	6		
		初修外国語			—	—	—	—	17	—	18	
	教養教育科目	A群～F群	※3		4	7	8	8	9	※5	9	※5
	キャリア教育科目	キャリアデザインⅠ※4		(1)	1	1	1	1	1	1		
専門教育科目	専門基礎科目					12	12	12				
	専門科目		16 〔1〕 ※6	39 〔7〕 ※6	63 〔12〕 ※6 ※7	88 〔34〕	109 〔55〕	123 〔69〕				
		課題研究		—	—	—	—	—	—	—	〔22〕	
共通教育科目もしくは専門教育科目			—	—	—	—	5	5				
望ましい年次別累積単位数		36	61	91	131	153	—					

※1 薬学入門Ⅰと連携して実施する。

※2 英語は、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「英語Ⅲ」、「英語Ⅳ」、「薬学英语演習Ⅰ」、「薬学英语演習Ⅱ」の6科目を必修とする。

※3 教養教育科目について、A～F群の中から3つ以上の群にまたがり選択。

※4 薬学入門Ⅱと連携して実施する。

※5 6年次までに英語、初修外国語、教養教育科目、キャリア教育科目を合わせて18単位修得する。

※6 1年次、2年次、3年次においては、専門基礎科目及び専門科目を併せてそれぞれ16〔1〕単位、39〔7〕単位、63〔12〕単位を満たせば専門教育科目の進級条件を満たすものとする。

※7 3年次においては、薬学部薬学科の必修および選択必修の専門教育科目の累積単位数を50単位以上取得しておくこと。

備 考	<ol style="list-style-type: none"> 年間履修登録上限単位数は、48単位（前期上限24単位、後期上限24単位）とする。ただし、卒業要件に含まれない科目の単位は含まない。 進級のためには、上表中の年次別必要累積単位数と各科目の単位数及び〔 〕内の必修の実習及び演習の累積単位数を満たさなければならない。この単位数を満たさない者は原級留め置き（以下「留年」という。）とする。 留年となった年度においては、薬学部規則第6条第2項により特別履修として実習・演習を除く専門教育科目5科目までを履修することができるものとする。ただし、特別履修で取得した単位は進級した場合のみ有効とする。 単位は、出席すべき授業回数数の3分の2以上出席し、かつ、定期及び臨時の試験等の成績評価によって合格した場合に認定される。 年次別必要累積単位数には、資格取得等に関する科目（一部の科目を除く）および副専攻科目の単位は含まない。 表中の（ ）内の数字は、科目別の望ましい年次別累積単位数を示す。 病院実務実習及び薬局実務実習の履修にあたっては、事前に共用試験を受験し、合格しなければならない。 所定の修業年限6年を経過し、かつ、卒業年次で留年した者で、卒業に必要な累積単位数を満たした者は前期の終りに卒業の認定を受けることができる。 同一年次に2年を超えて在籍することができない。ただし、休学の場合はこの限りではない。
--------	--